



# CSRレポート2015

事業・社会・環境活動についての報告書

CSR (Corporate Social Responsibility) とは「企業の社会的責任」を意味します。CSRレポートとはCSRの活動に関する取り組みをまとめた報告書です。「CSR=企業の社会的責任」という理解が定着していますので、生協の社会的責任についても「CSR」という言葉を使用しています。

# 『新21世紀ビジョン』の実現

「わたしの暮らし わたしたちの地域に 協同がはぐくむ 安心と笑顔を」

## 実現

### 1 組合員満足

生協の商品やサービスを利用することで、組合員が安心して笑顔で暮らせること。

### 4 地域社会への役立ち

京都の地に根ざした生協として、地域の経済や文化、コミュニティに貢献し、社会的存在にふさわしい事業と組合員参加を促進していること。

### 2 組合員参加

自分たちの願いを実現するために、組合員が商品・サービスの開発・見直し、運営の改善、暮らしの向上の取り組みに参加し、生き生きと活動していること。

### 3 職員満足と能力発揮

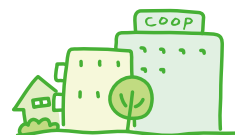
職員一人ひとりが京都生協のめざす姿を共有し、創意工夫し、能力を発揮していること。組織能力が向上していること。

### 5 経営の安定

安定した経営を実現していること。

## 京都生協が考える社会的責任

事業をすすめる組織として、人権尊重・法令順守は当然のこととしてとらえ、それ以外にも取り組むべき社会的責任についてISO26000(社会的責任に関する手引)を参考に7項目に分けまとめています。



- 1 よりよい商品・サービスの提供を通じて、組合員の満足を追求します。
- 2 誰もが健康でいきいきと働き続けられる職場づくりをすすめます。
- 3 取引先と対等な立場で、公正な取引と協力・協同の関係づくりをすすめます。
- 4 より環境負荷の少ない事業・活動をすすめます。
- 5 地域社会の一員としての役割を積極的に担います。
- 6 組合員参加・コミュニケーションを促進し、情報開示と説明責任を果たします。
- 7 健全で強い事業経営を築き、組合員から負託された経営責任を果たします。

# CSRレポート2015 発行にあたって

昨年11月に京都生協は創立50周年を迎えました。組合員は勿論のこと、多くの方々のご理解やご支援、そして職員のためゆめ努力でいくつかの困難をも乗り越え今があるのだと感謝の気持ちで新たにした一年でした。戦後の経済復興の過程で「…日に日に値上がりしていく商品をみながら、ただ黙って買わなければならない情けなさ」を味わっていた人々は「自らが主体的に生活協同組合を組織し、それを通じて積極的に合理的に消費物資を手に入れることでこれまでとは原理的に違う何か別なものになる…」との思いを設立へとつないでいきました。そして「平和とよりよい暮らし」のために食の安全は勿論のこと、環境や平和の課題にもきちんと向き合い、地域社会での果たすべき役割や責任を事業や活動で実践して参りました。今年で4年になる東日本大震災復興への支援は今後も継続いたします。このCSRレポートで京都生協のこれまでの50年が意義深いものであったことを読み取って頂ければと思います。

1995年1月の阪神淡路大震災の経験や、同年9月のICA声明を経て、日本生協連は1997年6月に全国の生協と共に“日本の生協の21世紀理念”を決定しました。それが「**自立した市民の協同の力で人間らしいくらしの創造と持続可能社会の実現を**」です。

自立した市民とは「自分でものを考え、自分で判断し、その結果に責任を持つ市民」のこと。人間らしいくらしとは「モノだけではなく、心の豊かさやすこやかさ、そしてゆとりあるくらし」のこと、そして持続可能社会とは、「私たちの子どもや孫たちの世代の経済的・社会的利益を損なわないように人々がくらしを営む社会」だとしています。京都生協では現在、社会への責任ある事業を行う姿勢を「7つの社会的責任」としています。

困難が予測される将来にこそ日本の生協の21世紀理念実現に向かうことが重要になります。そのためには健全な財務構造にしておくことが必須です。50年前私たちの生協を設立してくれた先人たちの『頼もしき隣人たらん』の心意気(spirit)に習って役員一同努力をして参ります。



理事長 渡邊 明子

## I N D E X

### 7つの社会的責任についての報告

1. よりよい商品・サービスの提供……	4
2. よりよい職場づくり……	6
3. 公正な取引と協力・共同の関係づくり…	7
4. より環境負荷の少ない事業・活動…	8
5. 地域社会の一員としての役割発揮…	13
6. 情報開示と説明責任……	16
7. 健全で強い事業経営への責任……	18
グループ会社の環境保全の取り組み…	19
監査……	20
第三者意見……	21
第三者意見を受けて……	22

## 京都生協は、2014年度新たに「KESステップ2SR (環境マネジメントシステム)」を取得しました。

京都生協では、2002年にISO14001を取得し10年間にわたって環境の取り組みを行ってきましたが、2014年3月21日をもって返上し、新たに「KESステップ2SR」を取得しました。KESステップ2SRは、ISO14001に準拠した規格となっています。これまでの環境の取り組みに加えてSR(社会的責任)についても目標を設定し、事業活動、商品及びサービスに係る「持続可能な発展への貢献を最大化」をめざして、継続的改善を図ります。今後はこれまでの環境負荷を減らす取り組みに加え、持続可能な社会の発展をめざして責任を果たすことが求められます。

KESは、あらゆる事業者を対象に「環境改善活動に参画する」ことを目的とした「シンプル」で取り組みやすい環境マネジメントシステムとして、全国で4000を超える事業者が登録しています。

### SR・環境管理重要テーマ

- (1) 地球温暖化防止対策として、CO<sub>2</sub>排出削減のためにエネルギー使用量削減と再生可能エネルギーの活用に取り組みます。
- (2) 環境に配慮した商品の取り扱いと普及をすすめます。
- (3) 廃棄物の発生抑制、再資源化をすすめます。
- (4) 資源や資材の有効活用をすすめるとともに、環境に配慮した資材の購入をすすめます。
- (5) 地域社会の要望にもとづいた施設見学や研修等の受け入れや、学習会の実施に取り組みます。

KESとは京都議定書の発祥地、京都から発信された「環境マネジメントシステム」の規格です

Kyoto=京都、  
Environmental Management System=環境マネジメントシステム、  
Standard=スタンダード



ステップ2 社会的責任



京都生協コープ商品の工場点検

# 1 よりよい商品・サービスの提供を通じて、組合員の満足を追求します。

## 2014年度は…

- 3店舗を改装、1店舗を移転・新築しました。
- 消費増税に伴い、個配手数料を引き下げました。

## ● 商品検査

### 微生物検査

食品中の微生物を正しく管理することが、食の安全への第一歩です。生協では法令よりも厳しい基準を設け、安全な商品が組合員にお届けできていることを確認するために微生物検査を行っています。検査の対象は、京都生協コープ商品、店舗で製造された刺身や寿司、揚げもの、京都協同食品プロダクトで製造された刺身や肉、産直卵など。さらに店舗の調理に使用される器具のふき取り検査も実施しています。2014年度は、3136検体の微生物検査を行いました。

### 理化学検査

コープラボ<sup>(※)</sup>などを活用しながら、食品添加物、放射性物質、残留農薬、残留動物用医薬品などの検査を実施しています。放射性物質検査は、福島県に隣接する地域で栽培された産直商品を中心に検査を行い、いずれの産直商品も検出限界値以下であることを確認しています。また、その他の検査についても、法的基準内であることを確認しています。

※コープきんき事業連合の検査センター



放射線測定の様子（コープラボにて）

## ● 商品の点検

### 産直商品

点検では、産地から提出された仕様書通りに生産されていること、農薬・動物用医薬品の使用した記録がきちんとつけられていること、選果場や加工施設の衛生管理、圃場や農場の管理が適切に行われていることなどを確認しています。2014年度は92産地（青果物、米、畜産物、鶏卵、牛乳）の点検を行いました。



産直「とまと畑のトマト」の生産者酒部さんの圃場を点検中

### 京都生協コープ商品

商品が仕様書どおりに製造されていること、工場内の整理整頓が行われていること、衛生管理が正しく実施されていることなどを点検しています。特に組合員への危害が想定される衛生管理に関わることや異物混入の防止対策について重点的に確認しています。2014年度は29取引先の点検を実施しました。

### 食品中の放射性物質問題に対する京都生協の対応

行政が行っている検査を監視するために、食品中の放射性物質検査を継続して行っています。検査した結果はすべて検出限界以下となっており、検査結果をホームページで公表しています。また、行政による検査結果や放射性物質に関わるニュースも公表し、情報提供に努めています。

1 よりよい商品・サービスの提供

2 よりよい職場づくり

3 公正な取引と協力の関係づくり

4 より少ない環境負荷の事業・活動

5 地域社会の一員としての役割発揮

6 情報開示と説明責任

7 健全で強い事業経営への責任



リニューアルオープンしたコープ二条駅

## 宅配事業

週1回、注文された商品を決められた場所へ配達するシステムです。京都府全域をカバーし、商品をお届けしています。

- 組合員の要望に応え個配手数料を値下げしました。引き続き6歳未満の子どもがいる世帯や満65歳以上のみの世帯の手数料割引を行っています。
- 夕食をお届けする「夕食サポート」の利用は1750食に広がりました。選べる種類を増やしました。
- 視覚障がいのある組合員62人が商品カタログの内容を録音した「声のキャンパス」を利用しています。



## 店舗事業

日々の買い物を通じて暮らしを応援しています。

- 「コープ二条駅」「コープながおか」「コープいわくら」を改装、「コープきぬがさ」を移転新築し、選ぶ・買う楽しみが広がりました。組合員の要望に応え少量化の品揃えを増やしました。
- 65歳以上の組合員の買い物割引を行う「いこいこシニアデー」登録数は、全店で2万8426人（前年比129%）となりました。
- 「暮らし応援情報」を提供するメールマガジンの会員登録数は1万6901人（前年比163%）となりました。



## 福祉事業

住み慣れた我が家で安心して暮らし続けられるよう、在宅生活を支援しています。ホームヘルプサービス事業所6カ所、通所介護事業所2カ所でサービスを行っています。

「介護事業」では、毎月のべ約2000人の利用者を対象に、約300人の職員（ヘルパー含む）が支援を行い、また地域の他サービス事業者との連携もはかっています。2014年度はヘルパーの人員確保が課題となりました。

「福祉・暮らし相談窓口」では、各事業やサービスと連携し、組合員からの問い合わせに対応しています。2014度は約270件（前年約370件）の相談がありました。



## 葬祭事業

葬祭事業は、「生協の事業なら葬儀も安心」という組合員の願いからスタートしました。葬祭に関わる相談には年中無休で対応し、仏壇仏具などの展示販売も行っています。

- 2014年度は684件（前年比102%）の「クオレ葬」の利用がありました。
- 共済事業部と協力し「エンディングノートの書き方学習会」を4回（前年7回）開催しました。葬祭ホール見学会や相続・遺言学習会などとあわせ、組合員の学習機会が広がりました。



## 共済事業

全国の生協組合員同士の助け合いによる保障制度です。京都生協の医療・生命共済契約件数は21万件（前年比100%）で、2014年度は3万7000件（前年比98%）の共済金を給付しました。

- 2014年8月の豪雨により被災した地域では、申請手続きの案内とお見舞いの訪問活動を行いました。
- コープ下鴨（店舗）に新たに共済カウンターを開設しました。保障について気軽に相談できる共済カウンター設置店は10店舗に増えました。
- 京都生協LPA（ライフプラン・アドバイザー）の会による学習会等は、92会場（前年72会場）、1233人（前年1550人）でした。



### 昨年のレポートの感想から

- 消費者の食の安全への関心はとて高いので、これからも信頼に応えていってほしい。
- 夕食サポート等誰もがぐらしやすくなる事業やサービスを広げてください。



育児休暇中の職員が職場を訪問

特例子会社「ハートコープきょうと(※)」の社員

## 2 誰もが健康で いきいきと働き続けられる 職場づくりをすすめます

2014年度は…

- 職員の情報共有ツールとしてウェブ上に「職員専用サイト」を開設しました。



宅配事業の事例報告

### 奨励事例制度

職員同士が学び合い、働きがいを高め、風通しの良い組織風土をめざすために、仕事の改善事例を評価し、優れた取り組みを職員組織で共有する取り組みを継続しています。2014年度は店舗での「夏休みこどもお手伝いカードの取り組み」等、157事例が表彰されました。

### 労働安全衛生の推進

職場労働安全衛生委員会を中心に、各事業所・部局では毎月リスクの発見・分析・対策の視点共有をはかり、安全で働きやすい職場づくりをめざしています。また、職員数50名以上の事業所では、年1回以上の産業医による職場巡視を実施しています。6月・11月は労災ゼロ月間を実施しました。また「メンタルヘルスセルフケアセミナー」の開催や健康づくり月間の取り組みで労働安全衛生を推進しています。

### 職員研修

各種研修により職員の成長を支援し、働きがいのある職場づくりをすすめています。2014年度はタイムマネジメント研修やアサーティブコミュニケーション研修など人事教育部職員が講師となり、事業系統、組織運営部、経営企画部などの研修を実施しました。

### ハラスメント防止の取り組み

ハラスメントのない職場づくりを目指し、マネジャー（所属長）を対象とする研修会を継続しています。また、全職員を対象に配布しているコンプライアンス冊子の中でも、パワハラ、セクハラの実例を取り上げ、啓発に努めています。

昨年のレポートの感想から

- ハートコープきょうと(※)の雇用がもっと広がることを期待します。

※障がい者の自立と、障がい者雇用の拡大を目的に設立した特例子会社

### ● 各種制度活用数、健康診断受診率、障がい者雇用率、離職率

	2014年度実績	
育児休職制度活用者数	3人(前年4人) 期間終了後全員職場へ復帰	休職期間満了後引き続き勤務することを希望する職員が、育児のために子どもが3歳に達するまで休職できる制度
育児時短制度活用者数	6人(うち男性1人) (前年8人)	保育所の保育時間の関係で通常どおりの勤務が困難な場合に、安定して働けることを目的に勤務時間を短縮できる制度
介護休職制度活用者数	1人(前年1人) 期間終了後全員職場へ復帰	休職期間満了後引き続き勤務することを希望する職員が、一定期間介護するために休職できる制度
有給休暇の積み立て日数	3658日 ボランティア休暇1人活用	時効により失効した年次有給休暇を一定日数まで積み立て、定年退職時に取得できる制度。そのうち年間1日はボランティア活動に使用できます。
有給休暇の積み立て時間	8086時間	正規職員と同様の、パート職員向け有給休暇時間積み立て制度
高齢者嘱託制度活用人数	5人	55歳以上の正規職員が勤務形態を選択できる制度
健康診断の受診率	93.4%(前年91.3%)	人間ドック利用人数123人
障がい者雇用率	2.23%(前年2.22%)	子会社を含め、18人が働いています。
新規採用正規職員の3年以内離職率	0%	現在6年連続0%

1 よりよい商品・サービスの提供

2 よりよい職場づくり

3 公正な取引と協力の関係づくり

4 よりよい環境・活動の少ない事業・活動

5 地域社会の一員としての役割発揮

6 情報開示と説明責任

7 健全で強い事業経営への責任



店舗の地産地消コーナー

### 3 取引先と対等な立場で、公正な取引と協力・共同の関係づくりをすすめます。

2014年度は…

- 常設の地産地消売り場が18店舗中16店舗に広がりました。

#### せいきょう虹の会

「せいきょう虹の会」は、京都生協の取引先メーカー・生産者が集う会で、京都生協創立20周年を機に設立されました。以来、「共同互助の精神に基づき、会員相互の研修と親睦を図るとともに、京都生協との連帯を通じて、平和とくらしを守る生協運動発展と会員の事業発展に資すること」を目的にかかげて活動している頼もしいパートナーです。

#### 第17回商品大交流会の開催

「せいきょう虹の会」と協力し、第17回商品大交流会を開催しました。出展した84のブースでは、試食や展示のほか、乳搾り競争など各種イベントが催されました。参加者は生協の取引先メーカー・生産者との交流を深めました。

#### 虹のフェスティバル

組合員と「せいきょう虹の会」に参加する取引先の生産者・メーカーとの交流を目的に、各地域で「虹のフェスティバル」を開催しています。2014年度は、24会場で開催され、延べ171の取引先に参加いただきました。

#### 地産地消商品の取り扱いの広がり

店舗の農産売り場では常設の地産地消コーナーが昨年から6店舗増加し、16店舗となりました。地元の旬の野菜を生産者とともに紹介しています。コーナーでの供給高は1億2578万円（前年比153%）となりました。

#### トピックス

京野菜マルシェ売り場コンテストでコープさがのの地産地消コーナーが2年連続の「京都府知事賞」を受賞しました。

その他の店舗ではコープ宇治神明、コープらくさいが入賞しました。



#### 生産者と協力した商品の取り組み

##### ●さくらこめたまごの応援金

京都の休耕田、耕作放棄田を活用して飼料米をつくり、その飼料米を京都のにわとりが食べて産んだ「さくらこめたまご」は、1個あたり1円が飼料米生産者と養鶏業者をささえる応援金となっています。2014年度の応援金は421万7700円となりました。

##### ●サンゴ再生もずく基金

基金対象商品の「もずく」を購入することで、1商品あたり1円が沖縄のサンゴ礁再生を支援するための基金となる取り組みを、(株)井ゲタ竹内、恩納村漁協とともに取り組んでいます。2014年度は26万2634円を恩納村漁協に送付しました。

#### 昨年のレポートの感想から

- 地産地消に力を入れているのは、いいことだと思います。
- 取れたての地元の野菜がお店にならなくてうれしいです。
- 虹のフェスティバルに参加し、産地の方からいろいろの情報が得られました





亀岡市旭町で行っている森林保全活動

# 4 より環境負荷の少ない事業・活動をすすめます。

## ●SR・環境目標と実績

### SR・環境方針に基づいて取り組みをすすめています

京都生協は、人間と環境との調和をベースに自然と社会の仕組みを相互関連の中で総合的に捉え、「持続可能な社会の実現への貢献を最大化」することが最重要課題のひとつであることを認識し、組織をあげてSR（社会的責任）活動の向上とともに環境負荷の低減に努力します。

京都生協は、食品・日用品を中心とした商品の供給及び共済、福祉等のサービスを組合員に提供していることをふまえ、次の方針に基づきSR・環境マネジメント活動を推進して地球環境との調和を目指します。

1. 当生協の事業活動、商品及びサービスに係る「持続可能な社会の実現への貢献を最大化」することを常に意識し、SR活動の向上並びに環境汚染の予防を推進するとともに、SR・環境マネジメント活動の継続的改善を図ります。
2. 当生協の事業活動、商品及びサービスに係るSR・環境マネジメント活動に関して適用される法的及びその他受け入れを決めた要求事項を順守します。
3. 当生協の事業活動、商品及びサービスに係るSR・環境影響のうち、以下の項目をSR・環境管理重要テーマとして取り組みます。
  - (1) 地球温暖化防止対策として、CO<sub>2</sub>排出削減のためにエネルギー使用量削減と再生可能エネルギーの活用に取り組みます。
  - (2) 環境に配慮した商品の取り扱いと普及をすすめます。
  - (3) 廃棄物の発生抑制、再資源化をすすめます。
  - (4) 資源や資材の有効活用をすすめるとともに、環境に配慮した資材の購入をすすめます。
  - (5) 地域社会の要望にもとづいた施設見学や研修等の受け入れや、学習会の実施に取り組みます。
4. 一人ひとりがSR活動の向上、及び環境負荷低減活動を積極的に実践できるように、このSR・環境方針を全役職員に周知するとともに、一般の人々が入手できるようにします。
5. 組合員によるSR・環境改善活動に積極的に取り組み、日々の消費のあり方が持続可能な社会の実現に多大な影響を及ぼすことへの自覚を広げます。あわせて、地域のSR・環境改善活動にも積極的に参画します。

上記の方針達成のために、SR課題・環境改善目標を設定し、定期的に見直し、SR・環境マネジメントシステムを推進します。  
京都生協SR(社会的責任)・環境方針2014年6月2日

### SR・環境方針に基づいて、目標を設定し取り組みました。

◆評価基準:○=100%達成 △=80%以上の達成、×=80%以下の達成、—=評価できず

SR/環境目標	2014年度のとりくみ	関連ページ	評価
CO <sub>2</sub> 排出総量を2020年までに、05年対比で15%削減します。CO <sub>2</sub> 排出量は、12688tで、12年比96.1%、05年比86.4%の到達。14年度は13年度比2%(△234t)の削減を目指します。	CO <sub>2</sub> 排出量は、1万1976tとなり、13年比94.5%、05年比81.6%の到達です。コープ東宇治の閉店、子会社のコープフードサービスの事業停止、支部統廃合による電力使用の効率化などで削減が進みました。	9	○
環境配慮商品の具体的な普及に取り組みます。環境配慮商品の再定義を行い、実績数値の把握ができる環境の整備を行います。	お届け裏面で、4週連続環境配慮型商品の紹介を行うクイズを実施し、参加人数は、8157人でした。環境配慮型商品の再定義を行い、実績をカテゴリごとに把握できるようになりました。	11	○
食品リサイクル率の向上を図ります。 ●14年度は、リサイクル率を維持します。	リサイクル率は、36.6%で、前年よりも2%増加しています。	11	○
リサイクルに取り組み、回収総量を維持します。 ●継続し、手順での管理を行います。 ●前年の回収総量を維持します。	回収総量4426t(前年4280t)前年比103.4%と増加しています。牛乳パック(98%)・卵パックで減少(96%)していますが、その他の品目で前年を上回りました。	10	○
お買い物袋持参率について94%以上を維持します。 ●継続し、手順での管理を行います。 ●京都市ゴミ減量推進会議、京都市レジ袋有料化促進懇談会に参加します。	14年度は94.3%でした。	10	○
地域社会の要望にもとづいた施設見学や研修等の受け入れや、学習会の実施に取り組みます。 ●前年件数を維持します。	店舗見学や、職場体験、インターン受け入れなど47回(前年45件)の研修を受け入れました。	13	○

1 よりよい商品・サービスの提供

2 よりよい職場づくり

3 公正な取引と協力・共同の関係づくり

4 より環境負荷の少ない事業・活動

5 地域社会の一員としての役割発揮

6 情報開示と説明責任

7 健全で強い事業経営への責任



コープきぬがさに設置された太陽光発電パネル



洛中支部に設置された太陽光発電パネル

現在5事業所に設置している太陽光発電施設の2014年度の発電量は、17万4162 kWhでした。

## ●地球温暖化防止自主行動計画の推進

京都生協は、地球温暖化防止自主行動計画を作成し、CO<sub>2</sub>排出削減に取り組んでいます。2013年度からの総量削減長期計画では、2020年までに2005年度対比で15%のCO<sub>2</sub>実排出量削減を計画しています。

事業活動を行うなかで2014年度1年間で排出したCO<sub>2</sub>の総量は、1万1976tとなりました。これは東京ドーム4.9杯分にあたります。

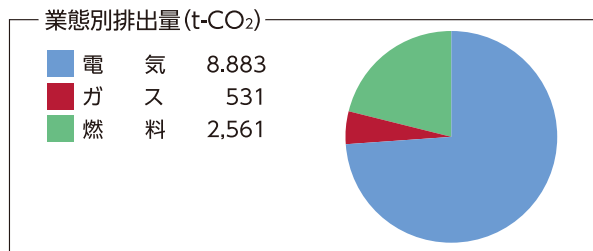
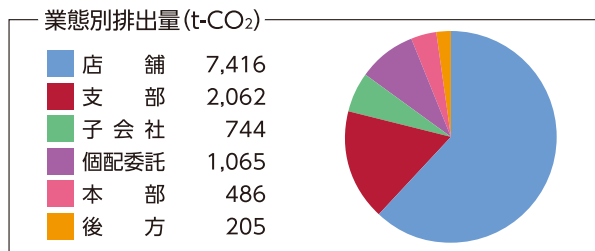
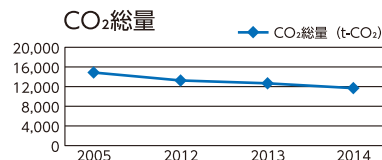
2013年度比94.5%、2005年度比81.6%の到達です。供給高1億円あたりのCO<sub>2</sub>排出量は、1.73(前年比93.4%)となっており、原単位でも改善がすすんでいます。延床面積×営業時間(1万当り)を原単位として、店舗の排出量を見ると、13年度27.11から14年度25.23と、この間のとりくみにより改善がすすんでいます。

※排出量には、日本生協連の地球温暖化防止自主行動計画の基準に沿って、京都生協100%出資子会社及び個配委託先の燃料使用量が含まれます。

詳しい数値実績はwebで公開しています。「京都生協 事業における環境配慮」で検索が、右の二次元バーコードから

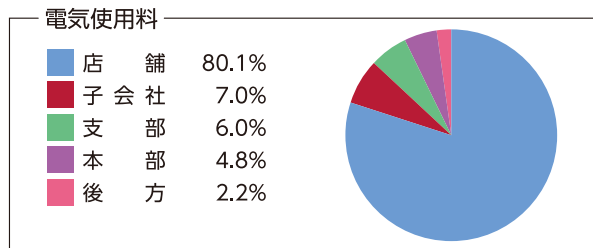


**1万1976t**  
東京ドーム4.9杯分

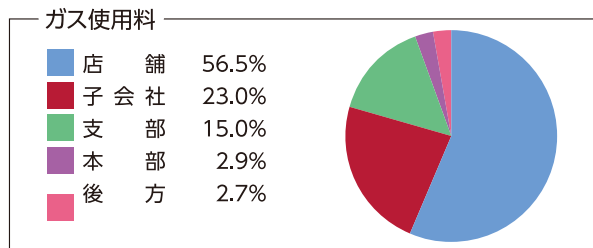


電気使用料は、2100万kWh(前年比92.5%)でした。2014年度は、コープ東宇治の閉店、コープフードサービスの事業終了、コープ烏丸の休業により106万kWhが減少しています。

また宅配事業所を12支部から10支部に統合し、昨年より減少する要素となっています。



ガスの使用量は25.2万m<sup>3</sup>(前年比で92.2%)でした。ガスは店舗の空調設備での使用が全体の約56.5%を占めています。



車両燃料は、98%が共同購入・個配の業務によるものです。支部では配送コースの見直しによる燃料使用量の削減の取り組みをすすめ、2012年度からエコドライブの講習会を各支部で実施しています。LPG車両については、リース切れに伴い順次軽油車両に移行しています。個別宅配の配達ポイント数の増加に伴い委託先での燃料使用量が増加しています。

また、京都生協では軽油代替燃料として廃食油を原料としたBDF(バイオディーゼル燃料)を2005年から使用しています(2014年度使用量6万4605L)。これは使用済みてんぷら油が原料であるため、カーボンニュートラルの考え方からCO<sub>2</sub>排出に換算していませんので、164tのCO<sub>2</sub>削減効果となっています。但し、新規車両については不具合が発生しているため、旧車両のリース切れに伴い導入車両は減少しています。店舗の惣菜部門からの廃食油も回収してBDFに加工されています。

2015年4月の改正フロン法施行に向けて、空調・ショーケース等の機器の管理台帳を作成しました。



環境フェスティバルに出展し、環境の取り組みを紹介

## ●地球環境のために

3R (Reduce : 発生抑制・Reuse : 再利用・Recycle : 再生利用) の取り組みにより、廃棄物を減らし、資源循環することができます。2014年度、組合員の取り組みで削減できたCO<sub>2</sub>は1260t-CO<sub>2</sub>と想定されます。

詳しい数値実績はwebで公開しています。「京都生協 組合員とともに取り組む環境活動」で検索か、右の二次元バーコードから



1 よりよい商品・サービスの提供

2 よりよい職場づくり

3 公正な取引と協力・共同の関係づくり

4 より少ない環境負荷の少ない事業・活動

5 地域社会の一員としての役割発揮

6 情報開示と説明責任

7 健全で強い事業経営への責任

### マイバック持参/レジ袋発生抑制の取り組み

身近なごみ減量の取り組みとして、1983年より下鴨組合員センター（現コープ下鴨）で組合員へマイバックの持参を呼びかけました。1996年からは全店舗でレジ袋1枚5円の有料化を行っています。マイバックの持参率は、2014年度は94.3%（前年94.1%）でした。

- 2014年度レジ袋想定削減数：1231万枚
- 削減数の原油換算（1枚当たり10mlとして）123キロリットル（ドラム缶200ℓ）で ×約616本に相当
- 地球温暖化防止に貢献  
→（1枚当たりのCO<sub>2</sub>排出量42gとして）517tの削減

\*レジ袋代金として集まった環境資金は370万1964円です。全額を環境リサイクル費用に充当し、不足分を経費で補填しています。

### 容器包装リサイクルの取り組み

使用済みの容器包装を再資源化するために、共同購入・個配では配達時に、店舗ではリサイクルコーナーを設置して回収しています。

	リサイクル資源	回収方法	再生利用	回収量、回収率 = $\frac{\text{回収量}}{\text{供給重量}}$
紙パック	共同購入 個配 店舗で回収	担当者へ 店舗回収BOX	トイレ ロール、 ティッシュ ペーパーなど	回収量125トン 回収率48%（前年47%） 削減CO <sub>2</sub> =112トン
食品トレー	店舗のみ 回収	店舗 回収BOX	食品 トレー、 文具など	回収量47トン 回収率130%（前年115%） 削減CO <sub>2</sub> =235トン
PETボトル	店舗で回収 16店舗	店舗 回収BOX	PET素材 の制服、 水切り袋	回収量87トン 回収率209%（前年219%） 削減CO <sub>2</sub> =283トン
カタログ類	共同購入・ 個配で回収	担当者へ	カタログ類	回収量4136トン 回収率73%（前年71%）
卵パック	共同購入 個配 店舗で回収	パックに 切り込みが あるA-PET 素材のみ 店舗 回収専用 ラック	卵パック	回収量31トン 回収率54%（前年57%） 削減CO <sub>2</sub> =113トン
内掛け袋	共同購入 個配で回収	担当者へ	植木鉢 など	回収量31トン 回収率26%（前年28%）

\*削減CO<sub>2</sub>量は、「環境省作成の3R行動による環境負荷削減効果見える化ツールVer1.2」を使用して算出しています。紙パックの回収量には、アルミ付き紙パックの回収量も含まれています。上記以外に、全店舗でボタン電池の回収、コープ西陣のみアルミ缶の回収を行なっています。

### PETボトルキャップの回収

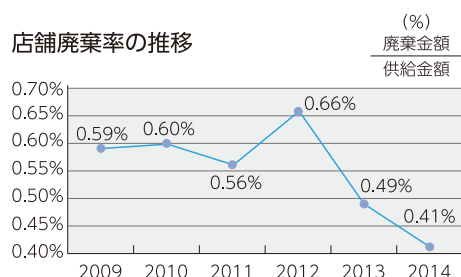
2010年5月より全店でPETボトルキャップの回収を開始しました。回収したキャップの売却費用は、この間の使途として、医療支援・ワクチン支援・障がい者支援、子どもたちへの環境教育等にあてられています。

2014年度は400万個（9万3000円）を供与しました。

## ●廃棄物の削減・再資源化

### 店舗での発生抑制の取り組み

廃棄物の排出は環境負荷につながるため、商品供給を適切に管理し廃棄物を減らすことが大切です。店舗では、環境負荷の低減とコスト改善に役立つため日常的に廃棄量の削減に取り組んでいます。2014年度は、リニューアルを実施した店舗では増加しましたが、全体では0.41%となり、前年よりも大きく改善させることができました。





子会社(株)コープネットワークサービスのエコセンター見学会



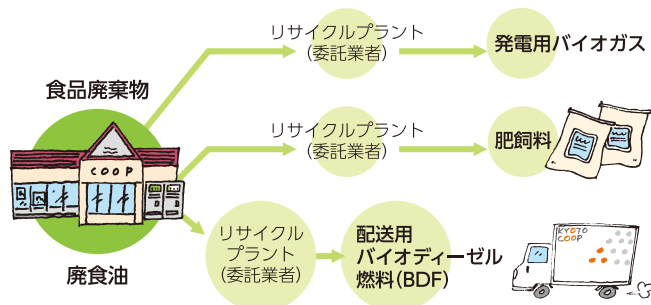
## 事業活動での資源化の取り組み

### 食品廃棄物

店舗から回収された食品廃棄物は、再生利用事業者のプラントでの飼料化や、バイオガス発電としてリサイクルされています。2014年度は、16店舗で221tをリサイクルしました。

店舗の惣菜の加工などで出された廃食油は、2014年度は34kLでした。全量回収して専用業者に引き渡し、京都生協の配送車両のバイオディーゼル燃料(BDF)に加工されています。トータルでのリサイクル率は、36.6%となっています。

※昨年までのリサイクル率について計算方法に誤りがあったため、今年度から正しい数値に訂正しています。



### 発砲スチロール

事業で出た使用済みの発砲スチロール箱は、(株)コープネットワークサービスのエコセンターで減容処理を行ったあと、処理業者のもとで建材(壁)にリサイクルされています。2014年度は83tを減容処理しました。

### 照明用蛍光管

「一般社団法人蛍光管リサイクル協会」に入会し、管理・回収を行っています。2014年度は、3542本(1019kg)を事業所から回収し、適正に水銀をリサイクル処理しました。

### 環境配慮型商品

エコマーク、有機JAS、MSCなどの社会的に認知された外部基準をクリアし、認証を取得した商品の普及にも取り組んでいます。

環境配慮型商品		利用点数	前年比	利用金額(万円)	前年比
CFP	商品を原材料から作り、運び、消費者が使い、そして廃棄・リサイクルされるまでに二酸化炭素(CO <sub>2</sub> )がどれだけ排出されているか計算し商品に表示したものです。	570,333	107%	17,211	113.3%
MSC認証	海の資源を枯渇させないよう、量や漁法・漁の時期などに配慮した水産製品です。	144,947	126%	5,334	126.3%
エコマーク	生産から廃棄を通して環境負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品です。	529,345	124%	24,745	119.4%
レインフォレスト	環境面・経済面・社会面での厳しい基準をクリアした農園経営への認証です。	26,181	—	603	—
特別栽培農産物	一定の基準で農業や化学肥料を使用しないで作られた農産物とその製品です。	19,722	97%	3,320	89.2%
有機JAS	生産された地域の慣行栽培と比べて農業の使用回数50%以下、化学肥料の窒素量を50%以下で作られた農産物とその製品です。	200,137	92%	5,454	89.9%
バードフレンドリーコーヒー	シェードグロウン(木陰)栽培で有機栽培されたコーヒーの認証。環境と動植物保護に配慮したコーヒーの栽培を推進します。	1,877	90%	108	88.2%
さくらこめたまご	7ページ参照	577,277	95%	9,856	105.8%
サンゴ再生もずく基金	7ページ参照	262,634	151%	※	※
総計		2,332,453	111%	66,632	112.2%

※サンゴ再生もずく基金は募金額でのみ管理しています。



グリーンカーテンコンテストの優秀賞

## 2014年度の特徴的な取り組み

### 新設支部での環境配慮

新設した洛中支部に49.9kwの太陽光パネルを設置しました。停電などの非常時には施設内で電力を使用できる設計としています。また2台の電気自動車を配備しました。電気自動車は洛北支部と合わせて合計4台となりました。

洛中支部新設にあわせて12支部あった施設を10支部に統合し、支部への商品の運搬効率を高めました



導入した電気自動車

### 宅配の大型冷凍ボックスの活用

個人別に集品していた冷凍商品の箱を、大型冷凍ボックスへ変更することにより容量全体を約30%削減することができました。これにより配送支部への運搬効率を高め、環境負荷を軽減できました。また大型ボックスの活用は、物流センターでのドライアイス使用量を約35%削減することにもつながっています。



宅配の大型冷凍ボックス

### 省エネ相談所

コープ醍醐石田、コープパリティの2店で、家庭の省エネ相談所を開催しました。相談所では、組合員に暮らしに関する簡単なアンケートに記入してもらい、コンピュータで診断して「エコライフ診断書」を発行し、それをもとに省エネ知識を持つ「家庭の省エネアドバイザー」が、各家庭に合ったアドバイスをを行います。



省エネ相談所

### グリーンカーテンコンテストを開催

グリーンカーテンによる省エネ・節電を広げることを目的に、グリーンカーテンコンテストを開催しました。21人からゴーヤや三度豆等を活用したグリーンカーテンの写真応募があり、ホームページで紹介しました。



グリーンカーテンコンテスト応募写真

### トピックス

#### JICAの省エネルギー研修に協力

JICA（国際協力機構）による省エネルギーの研修会にコープ醍醐石田が協力しました。JICAによる京都生協での研修会は2014年度で3回目となります。7か国から参加した研修生は、京都生協と一緒に省エネをすすめているファイナルゲートより、店舗で取り組んでいる事例説明を受けた後、店内や作業場・機械室などを見学しました。



JICA研修

#### 昨年のレポートの感想から

- 次世代へ向けて、ますますの環境問題の取り組みを強化してください。
- 原子力発電に頼らない再生可能エネルギー利用を期待します。
- 買い物袋持参が当たり前になったように、これからも取り組みを継続してください。

1 よりよい商品・サービスの提供

2 よりよい職場づくり

3 公正な取引と協力の関係づくり

4 より環境負荷の少ない事業・活動

5 地域社会の一員としての役割発揮

6 情報開示と説明責任

7 健全で強い事業経営への責任



コープ醍醐石田で始まったお買いものサポートカー

## 5 地域社会の一員としての役割を積極的に担います。

### 2014年度は…

- 見守り協定が京都市内18市町に広がりました。
- 京都市との物資調達協定を締結しました。
- お買いものサポートカーの運行を始めました。
- チャレンジ就労体験事業に協力しました。

### ● 事業を通じた取り組み

学生の職場見学・職場体験・就業訓練などの受け入れ職場体験を通じて地域の子もたちが職業について学習する「職場見学」「職場体験」「職業訓練」を支援しています。2014年度は、47校、1000人を受け入れました。

### お買いものサポートカー

旧コープ東宇治近辺の方々にコープ醍醐石田でお買物をしていただくため、ワンボックスカーを運行して送迎を行う無料のサービスを開始しました。2015年3月現在、地域を1日4往復しています。2015年度へ向け増車増便を計画しています。

### 移動店舗

買物に不自由されている地域や高齢者の方々に支援するため、移動店舗の計画をすすめました。トラックに生鮮品や総菜などを積んで地域を巡回し、その場で商品を見てお買物していただけます。京都市西京区で2015年7月のスタートをめざしています。



写真は他生協の移動店舗

### チャレンジ就労体験事業への協力

チャレンジ就労体験事業はすぐに就労が難しい生活保護受給者に就労体験の機会を提供し、自立に向けたステップアップを支援する取り組みです。京都市社会福祉協議会の依頼を受けて2014年度から京都生協の施設での受け入れが始まりました。

### 安全運転の推進

宅配事業を行う責任として、重大事故を発生させることがないように安全運転教育に力を入れ、地域の模範となる安全運転を心がけています。「安全運転管理委員会」を毎月開催し安全運転を推進するとともに、事故の発生状況については軽微なものを含め毎月のリスク管理委員会で発生状況をモニタリングし、要因の分析と対策をすすめています。



宅配事業の安全運転大会

### トピックス



#### ミラーリボン

リボンを意識することで自然とミラーへの意識も高まり、結果として安全運転につながられています。

### 特殊詐欺撲滅キャンペーンに協力

京都府消費生活安全センターの取り組み「特殊詐欺撲滅キャンペーン」に協力し、綾部市以北のトラック全車両へ啓発ステッカーを掲示しています。また同エリアの組合員へ注文書とともに啓発リーフレットを配布しました。



特殊詐欺撲滅キャンペーンのステッカー



- 1 よりよい商品・サービスの提供
- 2 よりよい職場づくり
- 3 公正な取引と協力・共同の関係づくり
- 4 より環境負荷の少ない事業・活動
- 5 地域社会の一員としての役割発揮
- 6 情報開示と説明責任
- 7 健全で強い事業経営への責任

### 京都市と災害時物資調達協定を締結

「災害時における物資の調達及び配送に関する協定」を京都市と締結しました。この協定では、大規模災害発生時に京都生協から京都市内の避難所へ食料や飲料水その他生活必需品を提供すること、京都生協が京都市保有の災害用備蓄物資を配送すること、支援物資を京都市から他都市等へ配送すること等を協力する内容です。



門川京都市長と畑専務

### 災害時に支援物資の調達で京都府に協力

京都府生協連が京都府との間で締結している「災害時における応急対策物資供給等に関する協定書」(1997年)に基づき、発災時は京都府の要請を受けて支援物資の調達・輸送に協力します。あわせて、毎年協定書に基づいた総合防災訓練に参加しています。



木津川市で開かれた防災訓練

### 豪雨災害支援の取り組み

京都府社会福祉協議会と協力し、ボランティアセンターの事務局として職員を派遣しました。ボランティア希望者の受付事務等の活動を行いました。



ボランティアバスを見送り

### 配達時の見守り活動の推進

京都府や各市町、社会福祉協議会と協力して取り組む配達時の見守り協定は、2013年度までの13市町に加え、さらに締結がすすみました。宮津市、長岡京市、木津川市、精華町、南丹市で協定を締結しました。宅配の週1回の配達のほか、週5日の夕食サポート配達時にも見守り活動を行っています。2014年度は、配達中に異変を感じた職員による14件の通報がありました。



精華町役場での見守り協定締結式

### きょうされんとの提携

1990年に協定書を締結し、提携活動をすすめてきました。宅配の商品カタログに定期的に作業所で作られた商品を掲載しています。2014年度は交流会やボランティア活動、署名・募金などの取り組みに、のべ698人の組合員が参加しました。

### 国際協力

#### ●ユニセフ

24回目となるユニセフお年玉募金に取り組みました。2014年度は、「エボラ熱シリア緊急募金」や、4年目となる「CO-OPコアノンスマイルスクールプロジェクト(※)」にも取り組んでいます。

※CO-OPコアノンロール等を1パック購入度に、アンゴラ共和国の「子どもにやさしい学校づくり」のために1円が募金されます。

#### ●ハンガーフリーワールド

国際協力NGOハンガー・フリー・ワールド(※)の「書き損じハガキ回収キャンペーン」に協力しました。

※飢餓のない世界を作るために活動する民間の国際協力団体です。  
書き損じハガキや切手などを集めて換金し、その資金を元にバングラディッシュ、ウガンダなど4カ国で活動しています。

### トピックス



**コープ下鴨が高齢者に優しいお店として表彰**  
京都市のすすめる「未来の京都まちづくり推進」の取り組みで、コープ下鴨が表彰されました。誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、高齢者にも優しい店づくりをめざすという姿勢を評価いただきました。



宮城県で復興餅つき大会を開催

## 福島支援交流会に参加

11月27日～28日、地産地消ふくしまネット(\*)が主催する福島支援交流会「福島の食と農・くらしの再生へむけて」に京都生協組合員10人が参加しました。参加者は福島の現状や製品の安全確保、復興へ向けた取り組みの報告を受けました。またどのように農産物の安全性を確認しているかについて視察しました。

※福島県内のJA・漁協・森林組合・生協でつくる地産地消運動促進ふくしま協同組合協議会



土壌の放射性物質の検査方法を見学

## 福島支援交流会の参加感想から

- 「これほど検査体制が万全で安全な農産物であるという事実に目を向けず、福島産を避けてきたことを反省しました。正しい情報を得ること、正しく伝えていくことの重要性を実感しました。」



収穫されたお米の全量検査

## 被災地生協が行うサロン活動に京都のお菓子を送付

被災地生協では、被災された皆さんの交流やふれあいの場として「サロン活動」を継続して行っています。京都生協は定期的に京都のお菓子をお届けし、サロン活動を応援しました。

## 第3回海の虹プロジェクト

夏休みに南三陸町の中学生を京都に招き、他団体や多くの支援者と協力して「第3回海の虹プロジェクト」を実施しました。南三陸町の2つの中学校から32人が参加し、京都府各地を訪問・交流しました。



綾部市での竹細工作成

## 第3回震災支援の餅つき大会

鳥取県畜産農協・みやぎ生協のボランティアと協力し、宮城県南三陸町志津川漁港と登米市南方町の仮設住宅で、餅つきと炊き出しを行いました。「海の虹プロジェクト」に参加した中学生も、炊き出しや餅つきに参加しました。



仮設住宅での餅つき大会

## 震災の経験を次世代へ継承する取り組み

2015年1月17日で阪神淡路大震災より20年が経過しました。震災の経験を受け継ぐことを目的として、若い世代の職員が神戸市で行われた「つながろうCO・OPアクション交流会」に参加しました。発災時コープこうべが取り組んだ事業継続の経験や復興支援の取り組みを学びました。



交流会場の展示を学習しながら

## 昨年のレポートの感想から

- 被災地交流や心のケアへの応援等、とても素晴らしい活動です。
- さらにさまざまな団体と協力して、活動の輪を広げてください。
- 配達時の見守り活動をされているトラックが街中を走ってくれていると思うと心強いです。





1日1300件以上の電話を受け付ける組合員コールセンター

# 6 組合員参加・コミュニケーションを促進し、 情報開示と説明責任を果たします。

## 2014年度は…

- 組合員の声からの検討により、16件の改善を行いました

1 よりよい商品・サービスの提供

2 よりよい職場づくり

3 公正な取引と協力の関係づくり

4 より環境負荷の少ない事業・活動

5 地域社会の一員としての役割発揮

6 情報開示と説明責任

7 健全で強い事業経営への責任

## 組合員コールセンター

2012年度に「組合員コールセンター」が設置され、さまざまな意見・要望を受け付けています。「衛生用品を中身の見えにくい包装に」「減らせるチラシの毎回記入→登録制へ」など、組合員の声から仕組みの改善につなげています。

電話対応実績

	苦情	意見・要望	問い合わせ	合計
2013年度	4万7562件	17万4943件	14万3426件	36万5931件
2014年度	4万9380件	17万4123件	13万2514件	35万6017件
前年比	103.8%	99.5%	92.3%	97.3%

## YYカードの運用

組合員から寄せられた苦情、意見・要望、リクエスト等は「YYカード（よくする&よかったよカード）」（※）として受け付けています。受け付けたカードは「組合員の声対応事務局」が迅速・丁寧・正確を目標に回答をすすめるとともに、組合員・職員・取引先とのコミュニケーション促進にも役立てています。

寄せられたYYカードの数

	苦情	意見・要望	リクエストなど	合計
2013年度	2996件	1203件	355件	4554件
2014年度	3267件	1066件	284件	4617件

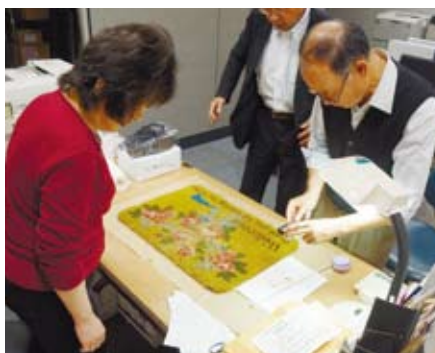
「苦情」は調査・分析を行い、原因究明と再発防止対策を明確にしています。「意見・要望」をもとに、関係部局で事業に生かすための検討会議を実施しています。2014年度は「宅配商品の留守置きの際、小動物（カラス、猫等）の被害を防止してほしい」の要望から「簡易安全カバー」を実施することが決まりました。

組合員の声からの実現事例

組合員の声	実現事例
グループごとに集品されている雑貨を、個人ごとに分けてほしい。	2015年度より個人別に集品できるよう、準備をすすめました。
弁当箱のフタが開けにくく、使いづらい。	パッキンを女性が利用しやすいフタのかたさに調整しました。
薄いピザにひびが入っている。包装について検討してほしい。	外箱の入り数の見直しや商品に台紙（厚紙）を使用する等を検討しました。

「リクエスト」についても商品案内や店舗の商品揃えの改善に生かしています。

※支店や店舗で組合員の商品に関する苦情・意見・リクエストなどを記入する用紙



お申し出のあった商品を調査・確認しメーカーへつなぎます（組合員の声対応事務局）

昨年のレポートの感想から  
● YYカード等の取り組みで、これからももっと組合員の声を聞いて役立ててほしい。

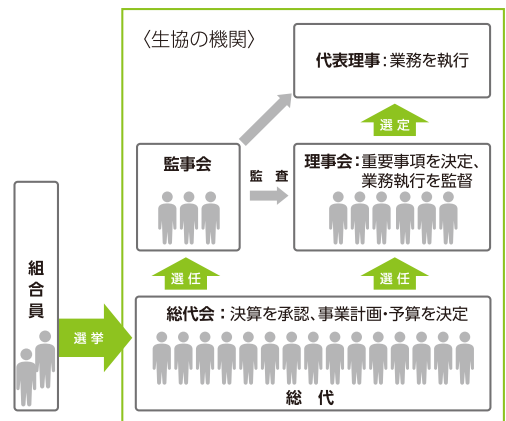


第50回通常総代会での採決時の様子

## 適正な運営をすすめるために

生協が社会的責任を果たすためには機関運営が適正に行われることが必要です。「機関」とは、法人の意思決定、決定された意思を執行、意思決定や執行の状況を監視のために法人の内部におかれる機構のことをさします。生協で機関にあたるのは、最高議決機関としての「総代会」、総代会決定に基づいて財産管理を含む業務執行全般についての重要事項を決定する「理事会」（生協を代表して業務を執行する「代表理事」を含む）、理事による業務執行の状況を監査し、適切な業務が行われるようにする「監事会」です。

各機関がそれぞれの役割を果たすことで、適正な運営がすすめられます。



## 理事会

毎月の理事会では業務の遂行状況を確認し、必要な意思決定を行っています。体制は組合員理事16人、有識理事5人、代表者として業務を執行する代表理事2人を含む常勤理事4人の25人です。2014年度は理事会を15回開催しました。

## 監事会

監事会は常勤監事1人、有識監事3人、組合員監事2人の6人体制で理事の職務執行を監査しています。2014年度は、通常総代会、理事会、その他の重要な会議等への出席と監査を実施するとともに、代表理事との定期会合を4回開催しています。

## 監査

監事会による監査のほか、監査法人等による「会計監査」を実施し、貸借対照表、損益計算書及び剰余金処分案（または損失処理案）附属明細書について監査しています。あわせて、専務理事のもとに内部監査担当を配置し、経営諸活動の全般にわたる管理・運営の制度、業務執行状況等を日常的に監査する「内部監査」、業務のルールや基準が守られているかどうかを職員が相互に監査し合う「業務マネジメントシステム監査」を実施しています。

## 総代会

最高議決機関である「総代会」では、総代が組合員の代表として、提案される決算や方針・予算などの議案について意思決定します。総代には必要な情報が提供され、理解を深めるための話し合いの場が必要となりますので、地区別の総代会議や懇談会、テーマ別総代懇談会等を開催しています。また、新しく総代になられた方には、オリエンテーションを開催しています。

2014年6月12日に開催された第50回通常総代会では519人中502人の総代出席（委任・書面議決含む）により、第1号から7号までの全議案を賛成多数で可決しました。その内容は、機関紙「コーポロ」・ホームページを通じて総代以外の組合員にもお知らせしています。



機関紙コーポロ8月号  
総代会特集

経営状況や理事会方針等の情報を提供するために、毎月「総代つうしん」を発行しています。またホームページの総代専用サイトでも、同様の情報を提供し、総代からの質問・意見を受け付けています。機関紙「コーポロ」では、総代会や理事会・監事会の報告等も行っています。



全職員に配布するコンプライアンス冊子と職員ハンドブック



マネジャー会議でのハラスメント研修

# 7 健全で強い事業経営を築き、 組合員から負託された 経営責任を果たします。

## 2014年度は…

- 大規模災害時の安否確認等の情報伝達手段を確保するため、安否確認メールシステムを導入しました。
- 経常剰余予算を達成しました。

### マネジメントシステムの運用

マネジメントシステムとは「めざすべき方針や目標を定めて、その目標を達成させるためのシステム(しくみ)」です。京都生協では、ISO9001(品質保証による顧客満足向上を目的とするマネジメントシステムの国際規格)を参考に、総合的な「業務マネジメントシステム」を運用しています。仕事の改善をすすめ、商品・サービスの向上、事業計画の達成をめざし、2014年度は経常剰余予算を達成することができました。

### 内部統制課題の整備

社会的な役割を發揮する前提として、公正で健全な組織運営が不可欠であり、内部統制を構築することはその基盤ととらえています。京都生協では2010年に「内部統制基本方針」を定め、「業務の有効性および効率性」「財務報告の信頼性」「事業活動に関わる法令等の順守」「資産の保全」という4つの目的を達成するために、毎月開催するリスク管理委員会整備計画の進捗管理を行っています。

2014年度は、大規模災害への備えとして、事業継続計画の見直しとあわせ、安否確認システムメールの導入、備蓄品の積み増し等を行いました。また、子会社である京都協同食品プロダクト(株)の経営健全化に取り組み、改善が進むなどの前進がありました。

### コンプライアンス体制の推進

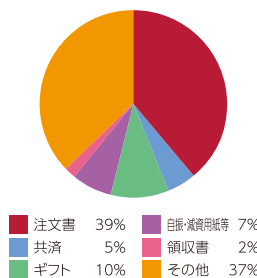
2005年に「コンプライアンス基本方針」「コンプライアンス自主行動基準・順守事項」を定め、倫理・法令や社会規範、および職場のルールを守り、正直で誠実な事業と活動を進めるための職員教育に取り組んでいます。

2014年度は「コンプライアンス自主行動基準・順守事項」を改定し、「反社会的勢力との関係遮断」を明記しました。改定した内容は、毎年CSR教育で全職員に配布する「コンプライアンス自主行動基準・順守事項Q&A」冊子に反映し、あわせてパワーハラスメント、ネット上での情報発信に関する注意喚起も追加して啓発に務めています。

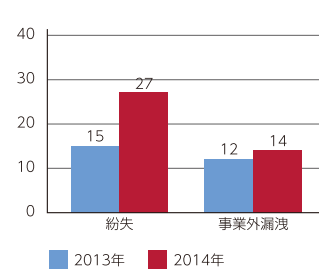
### 個人情報保護

業務上のルールを明確にし、個人情報の適正な取得・利用・管理に努めています。業務で使用するパソコンからのデータ持ち出しを防止するセキュリティ対策を行い、個人情報を預託する取引先とは、個人情報取り扱いに関する覚書を交わすなど、適正利用と安全管理を義務付けています。発生した個人情報事故(紛失など)については報告書の提出を義務付け、原因分析と再発防止の対策を確認しています。

2014年度対象別内訳



個人情報の紛失・漏洩等の発生状況



発生内容の多くは1~2枚の注文書や業務上の帳票類の紛失やお届け間違いがほとんどですが、2013年度より増加しています

### ヘルプライン窓口の設置

法律や生協内のルールに違反した行為についての通報や受け付けるコンプライアンス相談窓口(ヘルプライン)を内部・外部(法律事務所)に設置し、職員・取引先への周知を行っています。通報者は規程により不利益な処遇を受けません。2014年度は取引先専用窓口についてホームページで告知しました。

1 よりよい商品・サービスの提供

2 よりよい職場づくり

3 公正な取引と協力・共同の関係づくり

4 より環境負荷の少ない事業・活動

5 地域社会の一員としての役割発揮

6 情報開示と説明責任

7 健全で強い事業経営への責任

# グループ会社の環境保全の取り組み

## 京都協同食品プロダクト(株)

### ◆省エネルギー・省資源の取り組み

#### 1) 省エネルギー

	昨年対比目標	実績	評価	達成・未達成要因
電気使用量	99%	93.5%	○	蛍光灯は一部省エネタイプへ入替した効果、設備のメンテナンス強化、従業員の節電励行、社内全体で共有しソフト的な改善を進め、使用量を減少することができました。従業員の節電意識は向上してきています。今年15年度3月末より新たに全館蛍光灯をLED化へ入替を行いました。
ガス使用量	99%	114%	×	洗浄ボイラータンク内の燃焼効率の低下、不具合が判明し使用量が拡大しました。(機械的要因)

#### 2) 省資源

##### ①コピー機カウンター数

	昨年対比目標	実績	評価	達成・未達成要因
カウンタ数	99.7%	139%	×	部内、外部資料、会議資料、記録表等の拡大によるもの

### ◆事業系廃棄物削減の取り組み

#### 1) 生ゴミ排出量削減の取り組み強化

①歩留まり向上の強化：目標歩留まりを設定して技術のレベルアップを計り、歩留まり率の向上に努めました。

②原料の最大限の商品化努力：魚のカマ・アラ部分の商品化に積極的に取り組みました。

刺身の切身作業時に出る端材については、「海鮮丼用」で商品化を行い店舗へ供給しました。他の端材は社内販売で商品化しております。

③不良在庫削減努力：発注数量の適正化及び棚卸業務の精度アップや、社内販売の活用で不良在庫の削減に引き続き努めました。

#### 2) 定期的なゴミ総量の測定を実施しました。

①毎月一週間連続で事業系廃棄物の重量調査を実施しました。

<2014年度再資源リサイクル率> ( )内は2013年度比

総排出物量	再資源・リサイクル量	一般廃棄物量	再資源・リサイクル率
137.6t (82.2%)	126.1t (89.6%)	11.4t (43%)	91.7%

#### 3) リサイクル活動の推進

①印刷用紙の分別収集による裏面利用の励行(宅配納品用紙は片面使用)

②帳票用紙のカットによる再使用を全社員に徹底しています。

③両面使用後の紙リサイクル分別管理の徹底強化

④発泡スチロールの再利用

#### 4) 各種報告事項の順守に努めました。

①容器包装リサイクル協会への再商品化義務量及び委託料金を報告しました。

## (株)コープネットワークサービス(CNS)

◆生協組合員からリサイクル推進への要望を受け、2005年4月より環境事業に取り組んでいます。環境リサイクル関連の事業規模は年間約4600万円です。

◆リサイクル事業では、2014年度もペットボトルの圧縮作業87t、商品案内・カタログ類の回収395t、発泡スチロール箱83t・卵パック35tや集品用の内袋など31tをリサイクル資源として回収しました。

◆施設管理部門では、使用状況に応じ、LEDや省エネ蛍光灯(2灯80W⇒1灯32Wとなり、約60%の節約)を京都生協施設に設置しました。また、2014年5月に洛中支部、そして12月には、コープきぬがさに太陽光パネルを設置しました。京都生協施設からの廃棄蛍光灯の回収(2014年度:3542本)も行っています。

◆個配事業分野では、2013年度にグリーン経営認証を更新取得し、エコドライブ・燃費改善など環境に優しいドライビングテクニックの向上に努めています。また、2013年度にはSR(セーフティーレコーダー)を個配の全事業所に導入し、安全運転面は勿論、省エネ運転の強化に取り組んでいます。

## (株)京都コープサービス

京都生協の本部オフィス業務に関係する運用手順に準じた実践に努めています。

◆コープ保険サービスでは、保険契約者へweb約款切替え協力をお願いし、紙削減に取り組んでいます。

◆コープハウジングでは、断熱窓などの省エネリフォームや太陽光発電、省エネタイプの給湯器・設備の普及に取り組んでいます。

◆コープ文化サービスでは、車の長持ちを考えた車検「ながもちくん」やエアコン掃除などのハウスクリーンの取り扱いも行っています。

※(株)コープストアサービスは、京都生協の店舗事業の取り組みに準じて、環境保全に取り組んでいます。

# 外部審査の結果

## KES登録審査

### 1. 審査機関

特定非営利法人 KES環境機構

### 2. 受審組織

京都生活協同組合

### 3. 審査実施日

2014年9月5日、2014年9月9日～2014年9月10日

### 4. 適用規格

KESステップ2SR

### 5. 審査目的

京都生協のマネジメントシステムが、KESステップ2SRの要求事項に適合しているかを審査すること。

### 6. 審査結果

#### (1) 審査結果

KESステップ2SRに適合していると判断されました。

#### (2) グッドポイント 1件

本部審査の際の職員へのインタビューにおいて、「個人情報保護」への職員の意識の高さとリスク管理の徹底状況が評価されました。

#### (3) 観察事項 4件

- ・現場審査にて騒音・振動規制法と（京都府環境を守り育てる条例）で要求されている届出書の確認ができませんでした。
- ・業務マネジメント管理責任者、運用管理主管する担当がわかりにくくなっているとの指摘がありました。
- ・SR・環境改善活動の数値結果について、全職員への周知が不十分との指摘がありました。
- ・SR・環境改善活動の進捗管理の際の「不適合判断基準」に2つの異なった基準が存在するため一本化が必要との指摘がありました。

### 7. 監査対応

観察事項については、必要な改善処置を実施し、次回の確認審査の際に確認をいただきます。

1 よりよい商品・サービスの提供

2 よりよい職場づくり

3 公正な取引と協力関係の構築

4 より環境負荷の少ない事業・活動

5 地域社会の一員としての役割発揮

6 情報開示と説明責任

7 健全で強い事業経営への責任

## 第三者意見

### CSRレポート2015を読んで

浅岡美恵 (気候ネットワーク代表・弁護士)



毎年のCSRレポートは、京都生活協同組合から組合員への活動報告でもありますが、前年のレポートについて組合員の方々から寄せられた感想も掲載されており、双方向でのコミュニケーションツールとなっていることがわかります。2012年に設置された組合員コールセンターに、年間35万6000件もの苦情や意見、問い合わせが寄せられているというのも驚きです。1日約1000件にもなり、これらをしっかり受け止めていくことは大変だと思いますが、生協の運営にそれだけの関心が寄せられている表れでもあり、歓迎すべきでしょう。具体的な改善に反映し、その結果を伝えていくことで、組合員の方々から、より建設的な意見をいただけるのではないのでしょうか。

2014年は環境マネジメントシステムをISOからKES2SRに変更し、その1年目となりました。KESは地球温暖化防止のための国連会議COP3で京都議定書が採択され、その実践のために京都から発出してきた環境マネジメントシステムです。ISO14001に準拠しながら、中小企業に取り組みやすい簡易版を目指しており、ステップ2SRはその上級でCSRバージョンとなっています。日本弁護士連合会や京都弁護士会もKESに参加しています。私も理事を務めているKES環境機構では、時代の要請に対応したシステムに改定していきたいと考えていますので、利用者の視点から意見を出していただくことを期待しています。

気候の異変・温暖化の進行は誰の目にも明らかとなっています。今年12月にパリで開催されるCOP21で、2020年以降の各国の削減目標を合意の予定です。地球規模で2050年には温室効果ガスを半減させても、産業革命前から平均気温の上昇2℃未満に止めることが難しいのですが、世界の取り組みはその目標に程遠いのが現状です。日本は先進国の中でも、とりわけ遅れをとっています。国の目標や削減の実現の課題は、実は、個々の事業者や私たちのくらしの足元にあります。広く情報や知恵を得ながら、現場での工夫のなかでこそ、取り組みやすく実効性の高い方策が見出されるものです。

京都生協のCO<sub>2</sub>排出量の実績は、2014年度には、2005年度比81.6%、2013年度比94.5%とかなりの削減になっています。電気とガスの用途と使用量が示されていますが、一部閉店や休業の要因にもよるようです。取り組みの面からも分析した解説もほしいところです。原発依存度を下げていくためにも、エネルギー消費量そのものを減らしていくことが必要です。また空調や冷凍・冷蔵システムにおけるフロンや代替フロン類対策が注視され、回収・破壊に加えて、ノンフロン化も課題となっています。あまり知られていない課題ですので、温暖化対策としての位置づけを示すことで、組合員の理解も広がっていくでしょう。

CSRレポートは事業・社会・環境活動についての報告書です。小売業での競争も激化しています。店舗や装置の更新の機会には、省エネ、省資源、温暖化対策をシステムとして取り入れていくチャンスです。そうした計画についての報告も期待しています。

## 第三者意見を受けて

(専務理事) 畑 忠男



京都生協が考える社会的責任について、今年度も7つの項目(①よりよい商品・サービスの提供 ②よりよい職場づくり ③公正な取引と協力・共同の関係づくり ④より環境負荷の少ない事業・活動 ⑤地域社会の一員としての役割発揮 ⑥情報開示と説明責任 ⑦健全で強い事業経営への責任)に沿って報告しました。

ご意見をいただきましたように、組合員コールセンターでは1営業日あたり約1300件の苦情・意見、問い合わせをいただいています。寄せられた声から、取引先の協力を得て改善した事例が、2014年度は16件となりました。組合員の声は京都生協に対する期待の表れとしてとらえ、今後も具体的な改善に結び付けられるよう努力いたします。

2014年度は環境マネジメントシステムを新たにKESステップ2SRへ変更し、SR・環境方針を定めて取り組みました。昨年までの報告書と比較して「環境に配慮した商品の取り扱い」については、より具体的に報告することができました。また、地域でのSR(社会的責任)活動への参画もすすんでいると思っています。これからもSR・環境方針の達成のために、SR課題・環境改善目標を設定し、定期的に見直しをして取り組みをすすめます。

今回ご指摘をいただいたCO<sub>2</sub>排出量の削減の要因については、今後わかりやすくなるよう、記述内容を工夫して参ります。一昨年いただいたご意見もふまえて、今回よりホームページで環境の数値を詳細に公開することとしました。今回いただいたコメントについてもあわせて記載いたします。また組合員の期待に応える事業を展開するためには、施設の改修や機器装置の更新等を進めていく必要があります。その際にはご指摘いただきましたように、省エネ、省資源、温暖化対策につながるシステムになるように意識的にすすめて参ります。

京都生協は昨年創立50周年を迎えました。今後さらに社会的な責任を果たすことが期待されていると考えています。

SR(社会的責任)・環境マネジメントは終わりのない取り組みとしてとらえており、今後も「持続可能な社会の実現への貢献を最大化」とするため、組織をあげて努力して参ります。

貴重なご意見、ご指摘をいただき、ありがとうございました。



京丹後市袖志の棚田風景

## 京都生協のプロフィール

本 部 〒601-8382 京都市南区吉祥院石原上川原町

理 事 長 渡邊 明子

設 立 1964年11月27日

事業活動エリア 京都府全域

事 業 所 支部10 店舗18

介護事業所8(デイサービスふくむ)

葬祭事業1

子会社・関連会社 5社

2014年度概況(2015年3月20日現在)

組合員数 51万2929人

事 業 高 721億8470万円

出 資 金 154億2485万円

職 員 数 1701人(7.5H換算)

## 編集発行及びお問合せ先

### 京都生活協同組合CSR推進室

〒601-8382 京都市南区吉祥院石原上川原町1-2

TEL 075-672-6304 FAX 075-661-4311

ホームページ

<http://www.kyoto.coop/>

公式フェイスブックページ

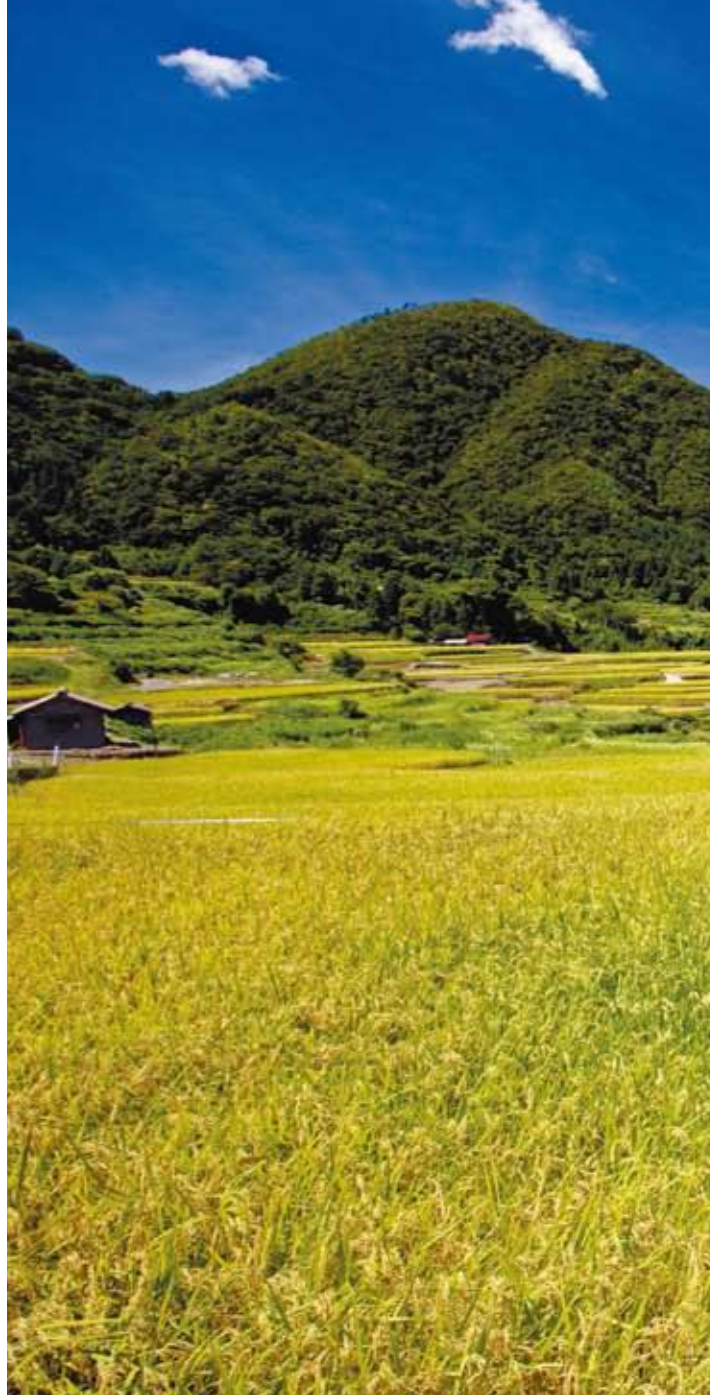
<http://www.facebook.com/kyotocoop>

発行/2014年5月

- 対象期間/2014年3月21日～2015年3月20日
- 対象範囲/京都生活協同組合(全部局・事業所)

## 編集方針

環境や社会とのかかわりにとどまらず、組合員、取引先、職員、地域コミュニティなど「ステークホルダー(事業活動の関係者)」全般に対する京都生協の社会的責任をISO26000(社会的責任に関する手引)を参考にまとめ、特徴的な項目を選択しました。



表紙写真：日本棚田百選に選ばれた京丹後市袖志(そでし)の棚田風景。京都生協は、棚田の保全活動に取り組んでいます。